

粟生屋源右衛門と青手を守った松山窯

天保2年(1831)5月に吉田屋窯が焼き止めとなり、その窯の譲渡を受けた宮本屋は、古九谷、吉田屋九谷と継承した青手様式から赤絵細描の様式に九谷焼画風を大きく変換しました。ほかの再興九谷諸窯でも赤絵一辺倒となり、細密さを競い合いました。しかし、古九谷以来の色釉薬の技法が軽んじられていく傾向を良しとせず、大聖寺藩では青手の九谷焼を復興するべく領内松山村に藩窯を築き、藩の贈答用品を作らせました。嘉永元年(1848)のことです。絵付け方には、かつて吉田屋窯で錦窯主任だった粟生屋源右衛門を招聘しました。粟生屋は助手に松屋菊三郎を伴ってふたたび青手九谷を作りました。色釉薬は吉田屋九谷と酷似していますが、紺青だけが失透性で「花紺」または「花紺青」と呼ぶ色彩となっています。松山窯の九谷焼のやや灰色を呈した素地は、北陸の曇天や冬の日本海の色に通じ、塗埋めても余白を残しても色釉薬と作風に重厚さを与えるため、北陸の風土を愛する数寄者に好まれたと考えられます。文久3年(1863)、粟生屋源右衛門が他界したのと同時に、藩は松山窯の助成を止めました。その後、民窯として続けましたが明治5年(1872)頃に閉窯しています。

松山窯で養成された名工とその系譜

後年山代窯で名高い大蔵清七や浜坂清五郎、西出吉平、栄谷窯の北出宇与門、勅使窯の山本庄右衛門、東野惣次郎らは皆この窯で養成されました。

なかでも北出宇与門の窯は、江沼郡一の規模をほこりました。その娘婿が三代目を継いだ北出塔次郎です。芸術家肌の塔次郎は「九谷に塔次郎あり」と言われ、昭和11年に陶芸界の巨匠富本憲吉が色絵を学ぶため半年間も

北出の窯に逗留していました。憲吉は古九谷以来の和絵具や金銀彩の技法を塔次郎の窯で習得し、戦後、色絵磁器で「人間国宝」に認定されました。塔次郎の子息不二雄も日展で活躍する一方、父塔次郎同様、後進の育成に熱心で金沢美術工芸大学で教鞭をとり学長までになりました。

粟生屋の助手だった松屋菊三郎も後年の名工のひとりで、小松に開いた九谷焼窯元「松雲堂」の鼻祖となりました。子息は松本佐平で、明治期に活躍し欧米への貿易にも才を示しました。その親族に初代徳田八十吉がおり、古九谷・吉田屋の色釉薬の研究に生涯を費やし名工の名をほしいままにしました。二代八十吉は魁星と名乗った時代に塔次郎と親交があり、富本憲吉の制作信条に影響を受けました。三代に至り古九谷の色を革新的な色使いで表現することに成功し「彩釉磁器」という技法で「人間国宝」に認定されたのは記憶にあたりしいところです。

文化勲章を受章した二代浅蔵五十吉は、初代徳田八十吉に古九谷の色釉薬の奥深さを、北出塔次郎から近代九谷の制作信条を学び、現代九谷に大輪の花を開かせ一時代を築きました。旧寺井町出身であることから多くの自作品を町に寄附し、それを記念して建てられた「浅蔵五十吉美術館」は、九谷陶芸村のなくてはならない観光スポットとなっています。

文：九谷焼資料館館長 中矢進一



松山窯 蕪に遊禽図平鉢(展示中)



いしかわ動物園に行こう！

文：いしかわ動物園

■「ミタケ」に大物の予感が…

アムールトラの「ミタケ」は、昨年5月28日に、長野市茶臼山動物園からいしかわ動物園にやってきました。生まれは平成30年6月24日で、まだ1歳7か月。

3枚の写真で、ミタケの成長を追ってみましょう。1枚目は生まれて2か月近くがすぎた(左から)「アツミ」「ミタケ」「ホタカ」の3兄妹。ミタケ以外は女の子です。手足は不釣り合いに大きいのですが、体は大きなイエネコくらいでしょうか。2枚目のサッカーボールで遊ぶ姿は当園で写したもので、すでに立派なトラの装いをしていますが、表情やしぐさがまだまだ子どもです。



アツミ、ミタケ、ホタカの3兄妹(長野市茶臼山動物園提供)

そして3枚目。外の展示場にも慣れてきたので、昨年11月26日に、ホワイトタイガーのクラウンと対面させました。どうです、パチパ

チツという火花の音がきこえるでしょ。体格も貫禄も桁違いのクラウンに、まったくもの怖じしないのです。その後、お腹を見せるなどして、ひとまず先輩トラへの敬意を表しはしますが、心の中では「いつかお前を倒してやる」と思っているのではないのでしょうか。最大のネコ科動物にして、最強の肉食動物でもあるアムールトラ。その本当の魅力が発揮されるのは、これからです。



サッカーボールで遊ぶミタケ



クラウンと初対面

みんなの図書館

おすすめの一般書



甘夏とオリオン
増山 実 [著]
KADOKAWA

大阪・玉出で、失踪した師匠を待ちながら肩を寄せ合い生き抜く落語一門。駆け出しの落語家・甘夏は、深夜の銭湯で寄席を開催することを思いつく。そこはどこか心に穴を抱える人々が集まる場所となり…。

おすすめの児童書



ねこと王さま
ニック・シャラット [作・絵]
徳間書店

ある日、ドラゴンのせいで、お城がもえてしまった王さまは、いちばんのともだちのねこといっしょに、町へ引っこして、小さな家にくらすことになりました。けれど王さまは、「王さまのしごと」のほかには、何もできなくて…。

■根上図書館

「こどもおはなしランド スペシャル」
日時 2月22日(土) 14時～
場所 学習センター 創作室
出演 「ね、おはなしよんでの会」・「えほんファミリー」
「しんくんシアター」
内容 パネルシアターや人形劇、楽しいおはなしがいっぱい！

■寺井図書館

「らいちゃんミニコンサート」
日時 2月18日(火) 12時30分～13時
出演 ギター三重奏「パエリア」
対象 どなたでも
「知つとるけ 能美の民話」
日時 2月29日(土) 14時～
出演 能美民話の会
内容 語り、佐野町に伝わる民話紙芝居など
対象 どなたでも

■休館のお知らせ

辰口図書館は、3月2日(月)～13日(金)まで蔵書点検のため休館いたします。根上・寺井図書館をご利用ください。

※詳しくは、ホームページ、各図書館だよりをご覧ください。

人口と世帯数

2020年1月1日現在

●人口 50,267人
(前月比+25)
男 25,057人 女 25,210人
●世帯数 19,306世帯
(前月比+31)

ひぼ・ゆずの ぽんごん ぽんごん

【冬のエコ】省エネで暖かく過ごしましょう

- ・窓は厚手のカーテンや断熱シートで外気を遮断して暖かく
- ・こたつの下にも断熱シート。湯たんぽも効果的！
- ・みんなで一つの部屋に集まってウォームシェア
- ・エアコンやファンヒーターのフィルター掃除もお忘れなく

問い合わせ 生活環境課 (☎ 58-2217)

12/14 デド・モローズやスネゲーロチカと踊りや歌で交流
第6回「ロシア風新年会」開催

ロシア風新年会が寺井地区公民館で開催され、6回目となる今回は、シレホフ市で開催された児童絵描きコンクールの能美市参加者への授賞式や、ハバロフスク市で日本語を勉強する中学生とのビデオ電話交流をしました。

「デド・モローズ（寒さおじいさん）」とその孫娘の「スネゲーロチカ（雪姫）」が登場すると、105名の参加者は2人のために「子アヒルの踊り」を踊り、日本の「お正月」を歌いました。お礼に2人は参加者全員にかわいいプレゼントを贈りました。そして、最後にみんなで仲良く写真を撮り、2人は笑顔でロシアに帰って行きました。

姉妹都市シレホフ市の子どもたちが能美市民のために書いた年賀状やハバロフスク市内中学生からの年賀状、シレホフ地方児童絵描きコンクールの能美市参加者の作品などが数多く掲示された会場内は、とても明るく華やかでした。

また、雑貨販売などさまざまなコーナーがあり、参加者にとって異文化を知る良い機会となりました。



12/19 寺井小学校で年賀状の書き方指導

寺井小学校の4年生3クラスを対象に、年賀状の正しい書き方を学ぶ授業が行われました。児童たちは、市内郵便局員の方々の指導のもと、年賀状の宛名や文章の書き方、年賀状が宛先まで届くまでの流れなどを学びました。

児童たちは社会科見学で訪問した市の消防署などに宛て、各々が考えた文章や可愛いイラストを添えた年賀状を書きました。



4年2組での授業の様子

みんなでつくる博物館プロジェクト!

みんなでつくる博物館プロジェクト「オリジナルしめ飾りと門松をつくらう」を12月21日、こくぞう里山公園交流館で開催しました。

まずは門松を飾る意味をお話し、早速しめ縄づくり! しめ縄には博物館で育てた稲や市内で収穫された稲の藁を使いました。初めての作業に苦戦しつつも、2020年が良い年になるよう、思いをこめてしめ縄をなってくれました。

門松は、土台の竹に三本の細い竹を立て、その周りに松葉や笹の葉、梅の花に加え、南天や稲穂を挿して華やかに。最後に自分で作ったしめ飾りを付け、完成です!

「制作するだけでなく、その意味や由来を説明いただくことでより理解でき良かった」などの感想をいただきました。

オリジナルしめ飾りと門松をつくらう!



完成した門松と記念撮影!

12/22 カピバラとシロフクロウ「ユズ」が再び国造ゆずPR大使に

能美市特産の国造ゆず生産者で構成される「能美市産国造ゆず特別栽培ネットワーク」は、冬至の日、いしかわ動物園のカピバラとシロフクロウ「ユズ」を国造ゆずPR大使に再任命しました。

また、冬至のゆず湯PRとして、国造ゆず生産者から動物園のカピバラに国造ゆずが贈られ、動物園から生産者に特製完熟たい肥が贈られました。

贈呈式後、金城大学短期大学の学生による国造ゆず入りみそ汁のふるまいが行われました。



カピバラは3回目の任命、シロフクロウ「ユズ」は2回目の任命です。

12/14 もしもに備えるいつも「親と子のきずな防災」講座開催

東日本大震災と熊本地震の二つの大地震を経験し、熊本県在住、親子で防災士の柳原志保さんと次男拓巳くん(中学2年)が能美市防災センターで、日頃から備える大切さを訴えました。

どうしたらすぐに防災に取り組めるのか、女性、母親の視点から日常生活の延長でできる事前の備えをゲームや体験を交えてお話しをいただき、最後に復興ソング「花は咲く」を全員で歌いました。



拓巳さんは、「コミュニケーションは自分から」ということを大切に、「つながる安心は力になる」と話していました。

祝百寿 いつまでもお元気で

12月17日に中村愛子さん(福島町)、1月2日に角上正一さん(福島町)、1月5日に西本美香さん(佐野町)がめでたく100歳を迎え、井出市長がお祝い状と記念品を手渡しました。

中村さんは、編み物をするのが好きで、小物やベストなどをよく作っていたそうです。穏やかな性格で、長生きの秘訣は「あまり怒らないこと」とご家族が話されていました。

角上さんに長生きの秘訣を尋ねると、「日頃から腹八分の食事を心がけることが大切」と答えていただきました。ご家族からは、お祝いのメッセージが書かれた色紙をプレゼントされていました。

西本さんへお祝い状の贈呈式が行われたはまなすの丘では、ご家族や施設の利用者の方々が集まり、西本さんをお祝いしました。西本さんは「皆さんのおかげです」と喜びの言葉を述べていました。



中村さんご家族



角上さんご家族



西本さんご家族